

JBC 東京試合役員会会議 【議事録】

2023 年 6 月 16 日（金）

18：30～～20：15

JBC 本部事務局・会議室

=以下、敬称略=

- ・主催・議長：飯田（東京試合役員会・副会長）
- ・書記：須藤（東京試合役員会・会計）

・出席者

【JBC 事務局】松原

【東京試合役員会】飯田、岡庭、小野、片山、須藤、染谷、高橋、富樫、福地、松坂、山岸、吉田（12 名）（五十音順）

（総合計 13 名）

◆18：30 開始

- ・議事開始宣言、開会挨拶、および本日の会議主旨説明〔飯田〕

◇事務局より連絡事項等〔松原〕

（コロナ関連）制限、規制は解除されている。あとは各プロモーターの意向によるものとなる。横断幕、幟も制限解除。

◇実務検証、共有事項（飯田）

出席者からの意見を聴取、協議。以下について共有事項とした。

◎1R 開始前の確認（リング上でのレフェリーからのインストラクション）

～各レフェリーへの現状確認～

- ・マウスピース 2 個の用意とその色の確認
- ・グローブテーピングの確認
- ・ファールカップの位置

*JBC からの見解をリクエスト中

◇試合検証～画像の視聴による

【試合検証】

- ① ストップのタイミング（選手の健康管理を最優先）
 - ・致命的な状態を作らない意識
 - ・ダウン前の 1～2 発手前でストップする意識

- ② ブレイクとストップの違い（使い分けを確認）
- ・煩雑な展開となっている（選手同士が技術的にボクシングが出来ていない）試合のレフェリング
 - ・ストップ、ブレイクのタイミングに注意
- ③ マウスピース落下時の処置について改めて確認
- ・マウスピース再装着について改めて確認
 - ・ダウンカウント中の故意と思われるマウスピース吐き出した場合
 - ・ダウン時に限らず、クリーンヒット時のマウスピース落下時の処置について改めて確認
- * ストップ、タイム、ニュートラルコーナー誘導、マウスピース拾い、洗浄、再装着…の手順を基本とする。
 - * ダウン時でマウスピース落下しても、そのまま再開は NG
 - * 可能な限り早く再装着、再開が必要
- ④ 同一ラウンドに双方の選手にダウンがあった場合の採点
- ・10-10 を安易につけず、ダウン以外のシーンやラウンド全体を見て優劣をつける様にしたい。
 - ・ダウンそのものに差はつけない、ダウン 10-8 でフラッシュダウンだから 10-9 としない事と同じ、ただし、ダウン以外の攻防や相対的にラウンド全体を見るので、フラッシュダウンより、ダメージダウンの方が、ラウンドにおいてダメージを与えた大きさを見れば当然、結果的に採点に影響される。
- * ダメージダウンの場合、その後の攻勢に差がでるはず。
 - * 「ダウンの質」+「ダウン以外の攻防」を総合的に判断して振り分けると、たとえスリップ気味であれダウンはダウンであり 10-10 は可能な限り付けないという観点から、双方ダウンがあった場合、「ダウンの質」は優劣を付けるより重要な要素になる。振分け要因の 80%であるクリーン・イフェクティブ・ヒットは、即ち相手にどれだけダメージを与えたか…双方ダウンしたという事実は相殺するにしても、ダウンを奪うに至ったイフェクティブ・ヒットについては、優劣をつけられる。
- ⑤ ダウンがあったにもかかわらず 10-10 10-9
- ・ダウン時の採点 10-9 にするケースを確認
- * ダウンした選手がそのラウンドを一方向的に支配した場合
 - * ダウンした選手が逆にダウン相当なダメージを与えた場合

- ⑥ 1R双方に2度と1度のダウン 採点
- ・海外のジャッジで10-9採点となった事例を確認
 - ・当該試合でも1者が10-9としている。
 - ・減点法の観点から8-7→10-9と考えていると思われるが、JBCでは現状通りに(減点を相殺するのではなく、ダウンの回数を相殺する考え方の)10-8とする。
- ⑦ 反則事例
- ・悪質な後頭部への加撃があった事例を確認。減点が必要なシーンとして共有した。

◇その他

再び新型コロナウイルスの感染者が増加傾向。

*改めて各自の体調管理を徹底願う。

*不調の場合は無理せず連絡をすること。

◆20:15 閉会挨拶 (飯田)

(終了)

以上
(次回会議の予定は別途連絡)